

	保育の中での学び、気づき、今後の見通し	保護者・職員との対話の中で心がけたこと・反省等	園務分掌(クラス・グループ・係等)運営・役割の中で考えたこと
職員 の 思い ・ 考え	<ul style="list-style-type: none"> 位置に一日を大切に、“今”を大切に過ごすことができた。 一人ひとりの成長を見極め、発達段階をふまえ、生活習慣の自立に向けて子どもたちにできる事を職員間で話し合いながら進めていくことができた。 担当制の保育を実践する中で、悩みながらも子どもの成長を感じ、感動を味わうことができた。 グループごとでの取り組みが変わるため、それぞれの活動について共有する機会を増やすことで、子どもたちの活動に幅が広がると感じた。 1年を通し、その時々の子どもの興味関心に合わせた保育内容を考え実践することができた。しかし、1年を通し、玩具の変化を考えることができなかった。1年を通した玩具の準備に変化をつけていけるようにしたい。 日々の変わらない日課を進める中で、自分でも先の見通しをもって様々な準備に取り掛かれるようになり、環境認識・制作・集団遊びを伝える機会を増やすことができた。 子どもに伝わりやすい言葉を選び話し関わるように心がけた。 子どもとのかかわりの中で、必要以上に関わっていると感じる時があった極冠的に状況を判断しながら子どもが自分なりに考えて行動ができるような見守り方をできるようになりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見があっても発言することを諦めてしまったり、「〇〇さん、言って。」と他者に言わせようとする職員がいた。言いにくい雰囲気、聞いてもらえない雰囲気を払拭し、当事者として意識を高めていくために職員一人一人の思いを真摯に受け止め、関わる必要があると感じた。 気になることがある場合に職員間で話し合い、保護者へ発信し、コミュニケーションをとり、家庭での様子の聞き取りなどを行うことができた。 保護者との対話の中で、保護者の伝えたいもしくは、聞きたい内奥が何なのか汲み取り、受け止めることの大切さを感じた。 保護者からの意見や質問に対し、園長はじめ、共有すべき職員に伝達できないことがあった。自分一人で終わらずに報告・連絡・相談を徹底する必要を実感した。 職員それぞれに覆いや考え方があり、一つの意見にすぐに同調するのではなく様々な人の意見を聞くように心がけた。そうすることにより感情的にならず冷静に判断をすることができたと感じる。 以上児の打ち合わせが中間期に比べ後半取れていなくて、伝達で話が伝わるようになってしまった。定期的な以上児会議を設けていく必要を感じた。 保護者からノートでお知らせいただいた要件に対して、ノートに記入して答えるのではなく直接顔を見てお話するようにした。そうすることで保護者の気持ちを細やかに伺うことができたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> “保育者とは…”“環境とは…”を常に念頭に置いて子どもたちの“今”を大切に先の見通しをもってそれぞれの仕事に取り組む必要があると感じる。 係の役割を確認しなおす必要があると感じた。 午後の時間をノンコンタクトタイムとして書類を進めて行けるように早目の伝達が必要だと感じた。 こども会議等で実施した行事については、もう少し早めに話し合いを行い取り組めるようにするとよいと感じた。 消耗品等無くなってから気づくことが多くあったのでなくなる前に知らせるを職員間で周知徹底したい。 野藤先生の研修をふまえて以上児の面談等は行っていくことができた。園全体の状況把握が難しく課題を感じた。 絵本の係として、途中入所児童の発注が遅れることが多くあった。未満児以上児どちらの入所であっても「誰かがやるからいい。」ではなく声を掛け合い漏れの内容に進めていく必要があると感じた。 様々な意見や考え方のある中で「自分の仕事、やるべきことは何か。」を冷静に客観的に会考するようにした。
まとめ (次年度への展望)	<ul style="list-style-type: none"> 〇 日課による保育を実施する中で子ども自身が1日の生活の流れがわかり生活に見通しをもって過ごすことができるようになっていくことを職員が実感を持って見守っている。 〇 担当制保育を取り入れる中で、今までの保育では感じる事が少なかった子どもとの信頼関係の築きを実感し、子どもの成長の様子に感動を味わうことができていくと感じた。半面たんとうであることをいしきしすぎて、担当時に固執してしまう職員の姿があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇 どの職員も保護者との対話についてはよく考えて実施しようと努力していると感じた。 〇 保護者からの意見や伝言に対し、職員が受けた内容が園長まで伝わっていないことがあり職員間での伝達はもちろんのこと聞き取りした内容の報告・連絡・相談の徹底をする必要を強く感じた。 〇 職員間の話し合いの必要性を職員一人ひとりが実感していることが分かった。未満児・以上児それぞれの話し合いの時間をどのようにして作っていくかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成長の記録、毎月のおたより、ポートフォリオ等、まずはやってみることから始めたことで、事務仕事が煩雑になっていると感じる職員がいたようであるが、子どもを一人ひとり丁寧に見るために必要な記録路をとらえ、何を省力化していくかを見極めていく必要があると感じた。 ・ 今年度係として取り入れ始めてその仕事を扱う中で一人では難しいと感じるもしくは、複数いる必要はないと感じた点を次年度は見直していきたいと感じた。